

主任教授からのメッセージ

高齢化社会を迎え、がん診療の必要性や重要性はさらに増えています。がん診療は幅広い知識や技量に加えて、患者さんに寄り添い、ともに戦うという全人的なアプローチも必要とされています。患者さんの多くは病気や治療の不安をかかえ、細やかな気配りや心安らぐ医療に勇気づけられます。このような観点から女性医師の存在や役割は大いに期待され必要とされています。当科では出産や育児などの家庭状況に合わせ、個々の医師のキャリアプランが達成可能な環境を提供できる診療科であると考えています。

○ 診療科の特徴

呼吸器腫瘍内科学講座は2022年（令和4年）に胸部腫瘍や呼吸器疾患の診療科として内科学第一講座より分離・独立いたしました。呼吸器疾患に関するさまざまな診断や検査、胸部腫瘍に対する化学療法を担当しています。外科や放射線科と協力した集学的治療や緩和ケアも実践しております。取得可能な専門医として総合内科専門医、呼吸器専門医、腫瘍内科専門医、気管支鏡専門医があります。

○ 診療科で働く女性医師

当科には8名の女性医師が在籍しております。附属病院に5名勤務、配偶者の転勤により東京で勤務の医師、大阪府内の病院で活躍している医師など日々診療や研究に邁進しています。産休や育休の医師、育休が明けて勤務時間や診療内容など相談しながら復帰いただいている女性医師もいます。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

復帰までの期間や復帰後の勤務については各医師と相談しつつ、本人のライフスタイルに合った勤務が可能となるよう柔軟に対応いたします。勤務内容についても本人の希望に沿う勤務形態を調整いたします。

呼吸器腫瘍内科		指導下	独立
検査	超音波検査	1～2か月	3か月以降
	気管支鏡検査	1～3か月	4か月以降
処置	CVカテーテル挿入	1～3か月	4か月以降
	胸水穿刺	1～2か月	3か月以降
	胸腔ドレーン挿入	1～3か月	4か月以降
	腰椎穿刺	1～3か月	4か月以降
外来	専門外来	1～3か月	4か月以降
	化学療法外来	1～2か月	3か月以降
	救急外来	1～3か月	4か月以降
病棟	主治医	1～3か月	4か月以降
	担当医	1か月	2か月以降

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

当科医師は全体で19名の医師が在籍しておりますが、その中で女性医師は8名います。現在主力としてフルタイムで病院に勤務している医師もいれば、日本各地の他病院に出向してキャリアアップを重ねている医師もいれば、産休・育休で子育てを生活の中心にしている医師もいます。女性は様々なライフイベントで継続的に仕事を行えない場合がありますが、当科では個々の事情を汲み取り個人個人にあったプランで支援しております。万が一、早退や休みを急にとらなければ

ばならない場合でもエネルギーに溢れた若手医師が多い為に臨機応変に対応可能ですし、積極的に育児に参加している男性医師もおりますので家庭事情への理解も柔軟です。復帰して家庭と仕事の両立が出来るか、誰でも不安かと思いますが最高のスタッフと個人個人に合った最高の環境で、是非一緒にキャリアアップしてみませんか。御興味のある方は、一度話しだけでも聞きに来て下さい。

➤ 復帰した医師の声

体験談（〇先生）

私は今年8年目の医師です。肺癌という病気に興味があり、呼吸器腫瘍内科に入局しました。もちろん仕事も大事ですが、女性として結婚や出産・育児にも興味がありました。そんな私は5年目に結婚し、6年目に第1子を出産・7年目に第2子を出産しました。当科は女性医師も多く、仕事と家庭の両立を既にされている先輩女性医師がいましたので、いろいろと相談出来る環境にあったことは非常に心強かったと今になって思います。次年度より職場に復帰する予定としていますが、復帰するに際してやはり子供の保育園へのお迎えなど時間の制約が在る中で職場の方々の協力を得て、家庭に支障が出ない範囲で出来る限りの仕事を行える様に環境調整を行って頂きました。一旦、ライフイベントで中断してしまった仕事を再開することに対して不安はありますが、様々なサポートを得ながら再開できる喜びの方が大きく、自分の出来る範囲で精一杯キャリアアップしていこうと考えております。また、私がそうして頂いたように今後入局を考えている若手医師や復職を考えている医師に対して女性医師として、また先輩ママ医師として相談に乗っていただけると考えております。

● 講座ホームページ 関西医科大学 呼吸器腫瘍内科学講座 <https://kmu-tho-onc.com>